

ワクチン接種現場における疼痛・不安などの予防への対策と接種後の対応

日本小児科医会理事
彩の国予防接種推進協議会会長
峯真人

日本産婦人科医会 記者懇談会 2020.9. 9

HPVワクチン接種率は約70%→1%へ

予防接種による副反応、有害事象などはなぜ紛争等につながるか？

- 予防接種は健康な人に対し予防的に行う医療であり、治療的医療ではない
- 健康であった人が、予防のために行った医療により健康被害をこうむるはあってはならないとの認識
- 一定の確率の中で起こる事象でも、人為的な大きなミスや問題があったのとの疑問を持たれやすい
- 予防接種を受けない場合のデメリットと、受けた場合のデメリットが比較できない
- 日本の予防接種の安全性と必要性に対する信頼度がいまだ高いとは言えない

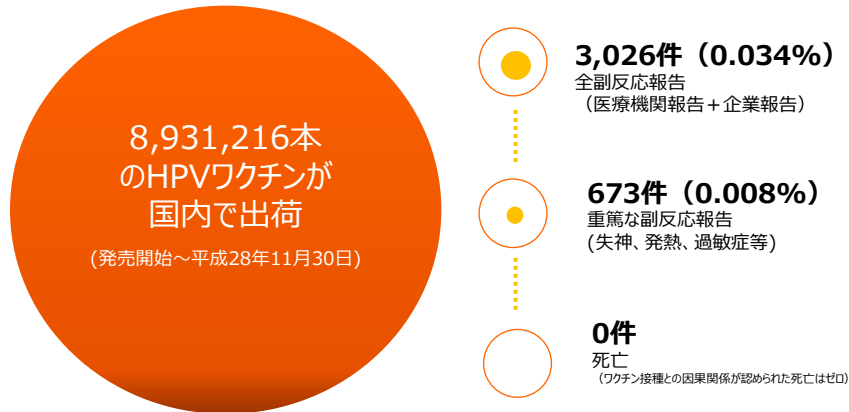
日本の若い女性に子宮頸がんが増えることがあっていいか？

- HPVワクチンによる副反応報告で重篤な例は多くないことが分かってきた
- HPVワクチン接種後に起こった種々の症状や事象が、ワクチンそのものが原因ではないことが、いくつかの調査で分かってきた
- 海外、国内のいくつかのアカデミアから、HPVワクチン接種の現状を変えるべきとの意見・声明・要望などが出されてきた
- 本来定期接種としてHPVワクチンを接種できたはずの女性からの公的な接種を希望する声が上がってきた
- 厚生労働省にもようやく前に進もうとする機運が見えてきた
- HPVワクチンに関するメディアの論調も変わってきている

日本の若い女性に子宮頸がんが増えることがあっていいか？

- HPVワクチンによる副反応報告で重篤な例は多くないことが分かってきた
- HPVワクチン接種後に起こった種々の症状や事象が、ワクチンそのものが原因ではないことが、いくつかの調査で分かってきた
- 海外、国内のいくつかのアカデミアから、HPVワクチン接種の現状を変えるべきとの意見・声明・要望などが出されてきた
- 本来定期接種としてHPVワクチンを接種できたはずの女性からの公的な接種を希望する声が上がってきた
- 厚生労働省にもようやく前に進もうとする機運が見えてきた
- HPVワクチンに関するメディアの論調も変わってきている

日本のHPVワクチン副反応報告



厚生労働省 厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会第26回副反応検討部会資料1、2より作成
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2/0000161332.html>

日本の若い女性に子宮頸がんが増えることがあっていいか？

- HPVワクチンによる副反応報告で重篤な例は多くないことが分かってきた
- HPVワクチン接種後に起こった種々の症状や事象が、ワクチンそのものが原因ではないことが、いくつかの調査で分かってきた
- 海外、国内のいくつかのアカデミアから、HPVワクチン接種の現状を変えるべきとの意見・声明・要望などが出されてきた
- 本来定期接種としてHPVワクチンを接種できたはずの女性からの公的な接種を希望する声が上がってきた
- 厚生労働省にもようやく前に進もうとする機運が見えてきた
- HPVワクチンに関するメディアの論調も変わってきている

疫学調査（祖父江班）結論

疫学調査（祖父江班）結論

- ① HPVワクチン接種歴のない者においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を呈する者が、一定数存在した。
- ② 本調査によって、HPVワクチン接種

今回

疫学調査（祖父江班）結論

HPVワクチン接種歴のない者においても、
HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の
「多様な症状」を有する者が、一定数存在した。

厚生労働省 厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会第26回副反応検討部会資料4より作成 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000161332.html>
厚生労働省 厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会第23回副反応検討部会資料4より作成 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000147015.html>

Author's Accepted Manuscript

No Association between HPV Vaccine and Reported Post-Vaccination Symptoms in Japanese Young Women: Results of the Nagoya Study

Sadao Suzuki, Akihiro Hosono



PII: S2405-8521(17)30070-8
DOI: <https://doi.org/10.1016/j.pvr.2018.02.002>
Reference: PVR102

To appear in: *Papillomavirus Research*

Received date: 4 October 2017
Revised date: 29 January 2018
Accepted date: 22 February 2018

Cite this article as: Sadao Suzuki and Akihiro Hosono, No Association between HPV Vaccine and Reported Post-Vaccination Symptoms in Japanese Young Women: Results of the Nagoya Study, *Papillomavirus Research*, <https://doi.org/10.1016/j.pvr.2018.02.002>

This is a PDF file of an unedited manuscript that has been accepted for publication. As a service to our customers we are providing this early version of the manuscript. The manuscript will undergo copyediting, typesetting, and review of the resulting galley proof before it is published in its final citable form. Please note that during the production process errors may be discovered which could affect the content, and all legal disclaimers that apply to the journal pertain.

ワクチン接種者と非接種者で症状の発症頻度に差は見られなかった

	ワクチン接種なし		ワクチン接種あり		症状不明	オッズ比	95%信頼区間
	症状なし	症状あり	症状なし	症状あり			
1 月経不順	6,812	2,330	15,354	5,515	268	1.05	(0.99 - 1.11)
2 月経量の異常	8,569	565	19,205	1,638	302	1.29	(1.17 - 1.43)
3 関節やからだが痛む	8,412	729	19,324	1,522	292	0.91	(0.83 - 1.00)
4 ひどく頭が痛い	8,232	928	18,714	2,168	237	1.03	(0.95 - 1.11)
5 身体がだるい	8,116	1,047	18,587	2,291	238	0.96	(0.88 - 1.03)
6 すく疲れる	8,163	996	18,578	2,297	245	1.01	(0.94 - 1.10)
7 集中できない	8,433	728	19,407	1,448	263	0.86	(0.79 - 0.95)
8 視野の異常	8,986	171	20,470	388	264	1.00	(0.83 - 1.19)
9 光を異常にまぶしく感じる	8,802	359	19,964	915	239	1.12	(0.99 - 1.27)
10 視力が急に低下した	8,358	799	19,466	1,400	256	0.75	(0.69 - 0.82)
11 めまいがする	8,060	1,095	18,564	2,299	261	0.91	(0.84 - 0.98)
12 足が冷たい	8,004	1,155	18,317	2,536	267	0.96	(0.89 - 1.03)
13 なかなか眠れない	8,454	698	19,379	1,492	256	0.93	(0.85 - 1.02)
14 異常に長く寝てしまう	8,080	1,073	18,357	2,488	281	1.02	(0.95 - 1.10)
15 皮膚が荒れてきた	8,076	1,076	18,789	2,081	257	0.83	(0.77 - 0.90)
16 過呼吸	8,834	333	20,183	704	225	0.93	(0.81 - 1.06)
17 物覚えが悪くなった	8,944	220	20,257	632	226	1.27	(1.09 - 1.48)
18 簡単な計算ができなくなった	9,082	81	20,697	189	230	1.02	(0.79 - 1.33)
19 簡単な漢字が思い出せなくなった	8,986	185	20,471	417	220	0.99	(0.83 - 1.18)
20 身体が自分の意思に反して動く	9,107	58	20,689	200	225	1.52	(1.13 - 2.04)
21 普通に歩けなくなった	9,135	22	20,811	73	238	1.46	(0.90 - 2.35)
22 杖や車いすが必要になった	9,139	16	20,853	33	238	0.90	(0.50 - 1.64)
23 突然力が抜ける	9,054	100	20,586	284	255	1.25	(0.99 - 1.57)
24 手や足に力が入らない	9,007	124	20,461	357	330	1.27	(1.03 - 1.56)
25 その他 1 (自由記載欄)	2,641	118	5,539	528	21,453	2.13	(1.74 - 2.62)
26 その他 2 (自由記載欄)	2,467	28	5,201	89	22,494	1.51	(0.98 - 2.31)

※赤は接種有り)に有意に症状が多い、緑は接種有り)に有意に症状が少ない項目

出典：名古屋市子宮頸がん予防接種調査(2015年12月)

<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000073419.html>

日本の若い女性に子宮頸がんが増えることがあっていいか？

- HPVワクチンによる副反応報告で重篤な例は多くないことが分かってきた
- HPVワクチン接種後に起こった種々の症状や事象が、ワクチンそのものが原因ではないことが、いくつかの調査で分かってきた
- 海外、国内のいくつかのアカデミアから、HPVワクチン接種の現状を変えるべきとの意見・声明・要望などが出されてきた
- 本来定期接種としてHPVワクチンを接種できたはずの女性からの公的な接種を希望する声が上がってきた
- 厚生労働省にもようやく前に進もうとする機運が見えてきた
- HPVワクチンに関するメディアの論調も変わってきている

HPVワクチンの安全性に関する声明・評価

MHRA（英国医薬品庁） 2012.12

MHRA PUBLIC ASSESSMENT REPORT, December 2012.

4年間にわたるHPVワクチンの約600万接種の安全性を厳密に監視している。
ベネフィットとリスクのバランスは明らかに肯定的であるという以前のレビューの結論を支持している。

FIGO（国際産婦人科連合） 2013.8.2

FIGO Statement on HPV Vaccination Safety : 04.08.2013
<http://www.figo.org/news/figo-statement-hpv-vaccination-safety-04.08.2013>

世界125か国の産婦人科学会の集まりで、現在入手可能なすべてのデータ（臨床試験、市販後調査、CDC他）を確認したうえで、HPVワクチンの接種を継続すべきとしている。

WHO（世界保健機関） 2014.10

Human papillomavirus vaccines:WHO position paper, October 2014, No.43, 2014(9), 466-492
http://www.who.int/vaccines-documents/HTMLDocs/position_papers/43/43.html

HPVワクチンの安全性と有効性を繰り返し確認し、子宮頸癌およびHPV関連疾患予防のため、その接種を強く推奨している。

若い女性が本来予防し得るHPV関連癌のリスクにさらされたままとっている日本の状況を危惧し、安全で効果的なワクチンが使用されないことにつながる現状の政策決定は、真に有害な結果となり得る（警告） 2015.12

CDC（米国疾病管理予防センター） 2015.10.21

Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP) Summary Report 2015.10
<http://www.cdc.gov/vaccines/acip/meetings/downloads/advisory/2015-10.pdf>

多数の文献化されたデータおよび予備データにより、HPVワクチンの安全性は実証されている。
全てのHPVワクチンに対する安全性のモニタリングおよび評価は継続される。

日本の関連団体による見解

予防接種推進専門協議会（15団体）および2学術団体による HPVワクチン接種推進に向けた見解

HPVワクチンが定期接種になってからの2年半にHPVワクチンの有害事象の実態把握と解析、ワクチン接種後に生じた症状に対する報告体制と診療・相談体制の確立、健康被害を受けた接種者に対する救済などの対策が講じられたことを受けて、**HPVワクチンの積極的な接種を推奨する。**

これまでの国内の混乱は、一般の被接種者が知りえる情報が限定されていたことが原因のひとつと考えられ、接種推奨にあたりその根拠と考え方について以下に示す。

多くの国が予防接種プログラムを実施し、子宮頸癌の前癌病変が減少している

有害事象について国内外で再調査が行われ、海外ではCRPS、POTSの発生率に関して、ワクチン接種者と一般の集団で差がみられない

接種後に生じた症状に対する診療体制が全国的に整備されてきた

2016年4月18日



CRPS：複合性局所疼痛症候群
POTS：体位性起立性頻拍症候群

予防接種推進専門協議会 参加学術団体（15団体）
（公社）日本小児科学会、（公社）日本小児保健協会、（公社）日本産科婦人科学会、（公社）日本小児科医会、（一社）日本保育園保健協議会、（一社）日本感染症学会、（一社）日本呼吸器学会、（一社）日本産婦人科学会、（一社）日本耳鼻咽喉科学会、（一社）日本プライマリ・ケア連合会、（一社）日本環境疫学会、日本ワクチン学会、日本ウイルス学会、日本細菌学会、日本臨床ウイルス学会

非参加学術団体（2団体）
（公社）日本産婦人科医会、（公社）日本婦人科腫瘍学会

予防接種推進専門協議会 ホームページ お知らせ「HPVワクチン接種推進に向けた関連学術団体の見解」
<http://vaccine-kyogikai.umin.jp/>

（参考） Satoshi Iwata, et al. Vaccine 35 :2291-2292, 2017

日本産科婦人科学会の声明

HPVワクチン接種勧奨の早期再開を求める声明

HPVワクチンが定期接種になってから3年半以上が経過している。2015年8月に1回目の声明を発表し、今回、2016年12月に開催された第23回副反応検討部会における報告を含め、以下の理由に基づき改めてHPVワクチンの接種勧奨の一刻も早い再開を強く求める。

HPVワクチンは世界130カ国以上で承認され、60数カ国で公費助成接種が実施

WHOはHPVワクチンの安全性と有効性を繰り返し確認し、子宮頸癌およびHPV関連疾患予防のため、その接種を強く推奨している

海外では日本で問題となっているような慢性疼痛や運動障害等の多様な症状とワクチン接種との因果関係を証明する報告はなく、安全性に懸念を示す根拠は示されていない

接種後の多様な症状は機能的な身体症状であるという見解の元、国民への適切な情報提供を行うためには、ワクチン接種の有無によらない当該症状の頻度等に関する疫学的研究による知見が必要であるとの見解が示された

厚生省研究班による「青少年における疼痛または運動障害を中心とする多様な症状の受療状況に関する全国疫学調査」が実施され、2016年12月に報告があった
⇒HPVワクチン接種歴の有無に関わらず、思春期女性には痛み等の多様な症状を呈する人が一定数存在することが示された

2017年1月13日



日本産科婦人科学会 ホームページ 声明「HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種勧奨の早期再開を求める声明」
http://www.jsog.or.jp/statement/statement_170116.html

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）接種通知についてのお願い

2019年12月吉日

自治体首長殿
予防接種担当者殿

公益社団法人
日本小児科医会会長 神川 晃

子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）接種通知についてのお願い

子宮頸がん予防ワクチン（以下HPVワクチン）は、平成25年4月1日より、法律に基づく定期接種として実施しているところですが、厚生労働省から「副反応の発生頻度がより明らかになり、適切な情報提供ができるまでの間、積極的な接種の勧奨を差し控える」との地方自治法に基づく勧告を受け、同年6月14日より、積極的な接種勧奨が差し控えられています。

そのため、多くの自治体では HPV ワクチン接種対象者に対し、接種勧奨を目的とした個別通知や予診票の送付等は行なわれておりません。しかし厚生労働省の勧告は、あくまでも接種を積極的に勧める個別通知を控えている状況であり、接種自体を控えるものではありません。接種を希望される方には、従来どおり定期接種としての HPV ワクチンの接種が可能です。

しかしながら6年以上に及ぶ積極的な接種勧奨差し控えにより、HPV ワクチンが定期接種として接種可能なワクチンであるという事実が、接種対象者や接種希望者に伝わっていないのが現状です。さらに定期接種対象者に対して正確な情報が周知されておらず、接種に至らない例もあるようです。

最近子宮頸がんや HPV ワクチンに関する新しい情報や調査結果が発表され、接種希望者や接種者が増加しつつあります。

定期予防接種の実施主体である地方自治体におかれましては、HPV ワクチンが定期予防接種であることを考慮いただき、定期接種対象年齢である小学校6年生～高校1年生相当の女子に対し、接種勧奨ではなく周知のための通知や委託医療機関への説明書、予診票の事前配布などの対策をお取り頂くよう、心よりお願いいたします。

日本小児科医会では、子宮頸がんから大切な命と健康を守るためのワクチンの重要性と、正確な情報を接種対象者や保護者など多くの方に伝えるためのポスターの作成を準備中です。

各自治体におかれましては、定期接種であるHPV ワクチンに関する通知などの情報提供に、是非ともご協力をお願いいたします。

HPVワクチンに関する ポスター

HPV ワクチンポスター案 B案 19/12/12



HPVワクチンって
なんでしたっけ？

子宮頸がんから 若い女性の命を守る ワクチンです

HPVワクチンとは...

- ・子宮がんの原因ウイルスの感染を予防することができるワクチンです。若い女性の命を守るワクチンです。
- ・接種されているワクチン接種後の痛みなどの症状は、ワクチンそのものによるものでなく、主に接種時の痛みなどによる反応です。
- ・痛みや副反応について丁寧に説明することで、副反応は軽減が期待されています。

子宮頸がんとは...

- ・日本で毎年約10000人の若い女性が子宮頸がんを発症し、毎年約3000人が命を失っています。
- ・痛みなどの若い女性の命を守るワクチンが、予防効果が期待されています。
- ・日本では若い女性の子宮頸がんが明らかに増えてきています。
- ・症状を悪化させていても早期発見ができれば、早期の発見により治療が容易です。
- ・定期検診とワクチン接種の両方が、女性の命を守るために非常に重要です。

そしてHPVワクチンは...

- ・定期接種ワクチンです。
- ・定期接種ワクチン（小中学生8年から高校1年相当）で受けたい方は、予約接種に限り無料で接種できます。
- ・副反応が起きた場合は、予防接種法により救済がされるワクチンです。

公益社団法人
日本小児科医学会
Japan Pediatric Association

日本の若い女性に子宮頸がんが増えることがあっていいか？

- ・ HPVワクチンによる副反応報告で重篤な例は多くないことが分かってきた
- ・ HPVワクチン接種後に起こった種々の症状や事象が、ワクチンそのものが原因ではないことが、いくつかの調査で分かってきた
- ・ 海外、国内のいくつかのアカデミアから、HPVワクチン接種の現状を変えるべきとの意見・声明・要望などが出されてきた
- ・ 本来定期接種としてHPVワクチンを接種できたはずの女性からの公的な接種を希望する声が上がってきた
- ・ 厚生労働省にもようやく前に進もうとする機運が見えてきた
- ・ HPVワクチンに関するメディアの論調も変わってきている

「HPV Vaccine for Me」の活動などが出てきた

日本の若い女性に子宮頸がんが増えることがあっていいか？

- HPVワクチンによる副反応報告で重篤な例は多くないことが分かってきた
- HPVワクチン接種後に起こった種々の症状や事象が、ワクチンそのものが原因ではないことが、いくつかの調査で分かってきた
- 海外、国内のいくつかのアカデミアから、HPVワクチン接種の現状を変えるべきとの意見・声明・要望などが出されてきた
- 本来定期接種としてHPVワクチンを接種できたはずの女性からの公的な接種を希望する声が上がってきた
- 厚生労働省にもようやく前に進もうとする機運が見えてきた
- HPVワクチンに関するメディアの論調も変わってきている

HPVワクチンリーフレット案

厚生労働省作成
詳細版
接種後の保護者の対応

まずは、知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクがあります。
まずは、子宮けいがんやHPVワクチン、子宮けいがん検診について知ってください。
周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医にご相談いただくこともできます。

市町村からのご案内 <例>

① 接種場所
市内の契約医療機関（〇〇市ホームページ <http://www.ooooooo.g.jp>）

② 接種費用
〇〇円

③ 接種に必要なもの
① 市民であることを確認できるもの（健康保険証など）
② 予約票（契約医療機関又は市町村に備え付けています）
※保護者の署名が必要です

④ お問い合わせ先
〇〇市保健福祉部保健予防課 電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇（午前〇時～〇時）

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、異常に異常があるとき

→ 接種を受けた医師、かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の影響に関する協力医療機関
※協力医療機関の選定については、接種を受けた市区又はかかりつけの医師にご相談ください。

不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき

→ お住まいの都道府県に設置された相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、他種接種、その他感染症全般についての相談

→ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害についての被害（救済）に関する相談

→ お住まいの市区町村の予防接種相談窓口

厚生労働省のホームページでは、HPVワクチンに関する情報をご案内しています。 [厚生労働省 子宮けいがん](#)

このご案内は、小学校6年～高校1年相当の女子やその保護者の方へ、
子宮けいがんやHPVワクチンについてよく知っていただいた上で、希望される方に接種していただけるよう、
おすすめするお知らせをお送りするのではなく、みなさまに情報をお届けするものです。

令和2(2020)年

HPVワクチンリーフレット案

厚生労働省作成
接種後の配布資料

HPVワクチンを受けた お子様と保護者の方へ

ワクチンを受けた後は、
体調に変化がないか
充分に注意してください。

もしも、気になる体調変化があった場合は、
このリーフレットを参考に、医師に相談してください。



当日 ワクチンを受けた後30分ほどは
座って様子をみてください。*

※接種の興奮や、強い痛みをきっかけに、生理的な反応として、
脈拍がゆっくりになったり、血圧が下がったり、時に気を失うことが
あります。この反応を、血管迷走神経反射と言います。
通常、機になって休めば自然に回復しますが、
この時に、倒れてケガをすることがあります。

ワクチンを受けた日は
はげしい運動はやめてください。



数日後から数週間後 気になる症状が出たときは
すぐにお医者さんや周りの大人に相談してください。
心配される症状を薬品に添付していますので、参考にしてください。

ワクチンを受けても、子宮けいがん検診は必要です
ワクチンを受けた人も、20歳をすぎたら2年に1回は必ず検診を受けてください。
ワクチンで防げないタイプのがん（HPV16・18以外）のリスクも残ります。



HPVワクチンリーフレット案

厚生労働省作成

接種後の配布資料

以下のような症状が出たら、
ワクチンを受けたことを伝え
お医者さんや周りの大人に相談してください。

- 注射の針を刺したときに強い痛みやしびれを感じた
- ワクチンを受けた後に、注射した部分以外で痛みや手足のしびれ・ふるえなど別の症状や体の変化がある

起こるかもしれない体の変化

- | | |
|----------|--|
| よく起こるもの | ● 注射した部分の痛み、腫れ、赤み、かゆみ、出血、不快感
● 疲れた感じ、頭痛、腰痛、筋肉や関節の痛み、じんましん、めまい |
| まれに起こるもの | ● 緊張や不安、痛みなどをきっかけに気を失う |

※「サーベイランス調査結果」を参照してください。

まれですが、重い症状が出る場合があります。

- 神経痛、じんましんなどを症状とする重いアレルギー（アナフィラキシー）
- 手足の力が入りにくいなどの症状（ギラン・バレー症候群という末梢神経の病気）
- 頭痛、嘔吐、意識の低下などの症状（急性重症性脳脊髄炎（ADEM）という脳などの神経の病気）

● 痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動について

- ワクチンを接種した方から、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かさずとも勝手に動いてしまう）の一部が無事に動いてしまうことなどとする多様な症状が起きたことが臨床試験の報告により報告されています。（ワクチンを接種してなくてもこうした症状のある方もいますので、ワクチンによるものではない場合もあります。）

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

→ 接種を受けた医師、かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関（※協力医療機関の名称については、接種を受けた医師からかかりつけの医師に相談してください）

予防や診断があるとき、困ったことがあるとき

→ 主治医の診療科に設置された相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

→ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害についての調査（救済）に関する相談

→ 主治医の市区町村の予防接種担当部門

厚生労働省のホームページでは、HPVワクチンに関する情報を掲載しています。

厚生労働省 子連れいん

検索



令和2(2020)年

HPVワクチンリーフレット案

厚生労働省作成

医療従事者用資料

医療従事者の方へ ～HPVワクチンの接種に当たって～

- HPV ワクチンについては、接種後に出現する広範な疼痛、運動障害について現在専門家の間で検討中であり、機動的な対応（個別に接種を勧める内容の文書を送り出すこと）を一時的に控えています。
- しかしながら、HPV ワクチンが定期接種として接種できることに変わりなく、接種を希望される方に対しては、接種を行っていただくにしています。
- HPV ワクチンに関する知識がない方、接種すべきか判断できずに困っている方、接種に不安を抱いている方等が多くおられます。そのような方々に、適切な情報提供をお願いしたいと考えています。
- ワクチン接種に当たっては、接種種別・保護者に HPV ワクチンの有効性、安全性に関する十分な情報提供・コミュニケーションをはかりつつ上で実施してください。なお、その場合は接種種別とその保護者の不安にも十分配慮ください。



1 ワクチンの有効性について

■ ヒトパピローマウイルス（HPV）と子宮がんについて

- 子宮がんについては、HPVが持続的に感染することで、異形成を生じた後、浸襲がんになることが明らかになっています。HPVに感染した個人に置いた場合、多くの感染後で数年内にウイルスが消失しますが、その内数人は持続感染（がん発生の原因となるウイルス）が持続し、さらにその一部は浸襲がんになります。
- 性交経験のある人の多くは、HPVに一生に1回は感染するとされています。我が国においては、ほぼ100%の子宮がんがんで高リスク型HPVが検出され、その中でもHPV16が約80-90%を占めます。
- がんが国では年間約1.1万人の子宮がん罹患数とそれによる約2,800人の死亡者（※）を来す等、重大な疾患となっています。子宮がんは早期発見すれば予後は良好で、また、がんが検出されてから約10年以内の検出率は約1.1万例を占めています。がん検出率は、がん検出のリスクが高まることとされています。

■ HPVワクチンの効果について

- 2価HPVワクチン（サーバリックス®）はHPV16/18型の感染を、4価HPVワクチン（ガーダシル®）はHPV16/18/31/33型の感染を予防します。
- 2価のHPVワクチンには、HPV16/18型の感染とそれによる子宮頸部異形成を予防する効果を示されており、4価HPVワクチンにはHPV16/18/31/33型の感染とそれによる広範囲の子宮頸部異形成を予防する効果を示されており、自然感染で獲得する数種類のHPVも、少なくとも予防効果があることが臨床試験により明らかになっています。
- HPVワクチンは新しいワクチンであり、がんそのものを予防する効果を示す報告はまだ少ないため、現時点では証明されたとはいえず、子宮がんのほとんどは異形成を経由して発生することと考えると、最終的に子宮がんを予防できることが期待されます。
- HPVワクチン接種で予防されない型のHPVによる子宮がんも一部存在します。HPVワクチンの接種歴にかかわらず、子宮がんの検診を定期的に行うよう、指導・助言してください。



HPVワクチン リーフレット案

厚生労働省作成

医療従事者用資料

接種にあたっての注意②

- ワクチンを接種した後や、けがの後等に原因不明の痛みが続いたことがある方は「機能性身体症状」が出現する可能性が高いと考えられているため、接種者と保護者が十分確認してください。
- 接種後に現れた症状により、以降の接種を中止、延期することが可能です。2回目以降の接種時には、前回接種後の症状の有無を接種者と保護者に確認してください。

【機能性身体症状とは】

- 何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その症状に合致する異常所見が見つからないことがあります。このような状態を、機能性身体症状と呼んでいます。
- 症状としては、①短期に関する症状(頭や腕、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏等)、②運動に関する症状(筋力、歩行困難、不随意運動等)、③自律神経系に関する症状(倦怠感、めまい、嘔気、眩暈等、月経異常等)、④認知機能に関する症状(記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下等)等多岐にわたります。
- 痛みについては、特定の部位からそれ以外に広がることもあります。運動障害等についても影響所見と実際の運動との乖離、症状の変動性、注意がそれた場合の所見の変化等、機能性に特有の所見が見られる場合があります。
- 臨床現場では、専門分野の違い、病態のとりえ方の違いあるいは主たる症状の違い等により、様々な痛名で診療が行われています。また一般的に認められたものではありませんが、病態に関する仮説に基づいた新しい痛名がつけられている場合もあります。

例：身体症状、不安症／筋痛性障害（機能性神経症候）、線維筋痛症、慢性疲労症候群、起立性調節障害、複合性局所疼痛症候群（complex regional pain syndrome: CRPS）

【ワクチン接種後に機能性身体症状が疑われる患者が受診した場合】

- ワクチン接種直後から、あるいは遅れて接種部位や接種部位と異なる部位の持続的な痛み、倦怠感、運動障害、記憶等認知機能の異常、その他の体調の変化等を訴える患者が受診した場合には、HPVワクチン接種との関連を疑い、症状を訴える患者が存在することを念頭に置き、偏聴の態度（受容、共感）を持って話し、診療にあたってください。
- 患者が落ちついて診療を受けられるよう、また治療方針が首尾一貫するように取りはからいつつ、自分が主治医として診療するか、協力医療機関、専門医療機関の医師に紹介するかを検討してください。紹介される際にも、主治医が決定するまでは責任を持ってご自身で診療にあたってください。
- 上記2点の内容は、日本医師会及び日本医学学会より発行された「HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」に記載されています。詳しくはこちらをご覧ください。また、「HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関」を全国に設置しています。
「HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」
<http://www.mhlw.go.jp/funyu/kenkou/kekka/aka-nemeshou28d/ryouou150819-2.pdf>
「HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関」
http://www.mhlw.go.jp/funyu/kenkou/kekka/aka-nemeshou28d/medical_institution/d/kyogiroku.pdf
- 接種後に生じた症状によって受診する医療機関や、日常生活のこと、医療費のこと等で困ったことがあったときのための相談窓口を都道府県に設置しています。
http://www.mhlw.go.jp/funyu/kenkou/kekka/aka-nemeshou28d/madoguchi/d/151116_01.pdf
- 副反応疑い報告を行うか検討してください。

HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き

目 的

接種後に生じた様々な症状により適切な医療を求めている患者及び保護者に対する支援体制の充実

目 次

第1章 HPVワクチン接種後に症状が生じた患者への対応

1. 基本的な診療姿勢について
2. 面接・問診のポイント
3. 診察のポイント
4. 検査
5. 診断
6. 鑑別診断
7. 治療のポイント

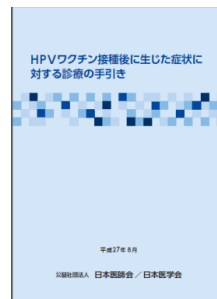
第2章 協力医療機関等との連携

第3章 日常生活の支援と、学校（職場）、家庭との連携

参考資料

- 参考1：診療・相談体制
参考2：関係法令、通知、制度等
参考3：関連ホームページ

- 産婦人科、小児科、疼痛学、神経内科、リウマチ科、精神科の専門家が編集
- 接種との因果関係の有無を問わず接種後に症状を訴える人すべてを包括的に診療するためのマニュアル



発刊年月：2015年8月19日
作成：日本医師会・日本医学学会

HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き 編集会議

名 簿

(西暦は編集会議実施年)

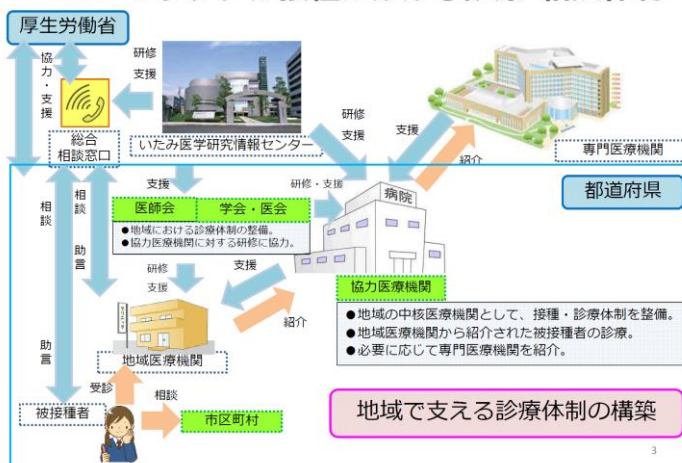
構成員 *五十名	五十嵐 隆	(国立成育医療研究センター 理事長)
	池田 修一	(信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 教授)
	井筒 一彦	(和歌山県立医科大学産科婦人科学講座 教授)
	牛田 享宏	(愛知医科大学医学部学際的痛みセンター 教授)
	奥山 伸彦	(JR東京総合病院 副院長)
	神津 仁	(神津内科クリニック 院長)
	小西 郁生	(京都大学大学院医学研究科婦人科学産科学 教授)
	鈴木 光明	(自治医科大学産婦人科講座 教授)
	住谷 昌彦	(東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部 部長)
	西岡久寿樹	(東京医科大学医学総合研究所 所長)
	峯 真人	(峯小児科 院長)
	宮本 信也	(筑波大学人間系 系長)

編 集 高久 史磨 (日本医学会 会長)
小森 貴 (日本医師会 常任理事)

監 修 横倉 義武 (日本医師会 会長)

協力医療機関の整備

HPVワクチン接種にかかる診療・相談体制



「HPVワクチン接種に当たって」

弟と一緒にインフルエンザワクチン接種を目的として来院した中学生の姉が、問診と診察の時までは、弟に「痛くないからね、絶対泣いちゃだめよ。」といていたにもかかわらず、自分の注射の番になると非常に緊張して、「先生、待ってちょっと待って」と言ってなかなか接種させてくれずに、何とか接種した後に過呼吸の常態になるなどして周囲を困惑させる場面を時に経験する。

乳幼児では、怖ければ嫌がって泣いて抵抗し、痛ければ大声で泣きわめく。しかし年齢が大きくなると恐怖や痛みについての気持ちを素直に表現できなくなり、その気持ちを色々な症状などで表現する。

このような年齢層の、しかも感受性の高い女子に接種するのがHPVワクチンである。しかもこのワクチンは他のワクチンと比べ、確かに接種時とその後の疼痛が強いことが知られている。乳幼児期と比べ、もともとこの年齢でのワクチン接種の機会は多くない。せいぜいジフテリア・破傷風の2種混合ワクチン(DT)やインフルエンザワクチン程度であろう。しかも今までに接種経験のある皮下注射とは異なり、筋肉内注射による経験したことのない「質の違う痛み」は、おそらくこのような女子に特別な記憶を残すことになるであろう。

このように対象年齢と性別、接種手技において他のワクチンと異なるHPVワクチンの接種に当たっては接種前後に気を付けなければならない点が複数ある。以下にその留意点をあげる。

「思春期の女子へのHPVワクチン接種時の留意点」

- 1) HPVワクチン接種希望者に対してはワクチン接種の目的と、それにより予防可能な病気や子宮頸がん検診の重要性等について十分説明し、その内容を理解してもらえたかを確認する。
- 2) 本ワクチンが筋肉注射であるなどの接種方法、接種部位について説明する。
同時に利き腕の確認、前回接種部位の確認、接種後数日間に被接種者本人がかかわるイベントの予定があるかなどの確認を行い、接種後の痛みなどの症状に伴うデメリットをできるだけ少なくするように配慮する。
- 3) 接種後短期間におこり得る事象を説明し、理解をもとめる
 - ・症状は軽いが高頻度の高い事象：接種部位の痛み・腫れ、発熱など
 - ・発生頻度は低いと比較的症狀が重い事象：めまい・失神など
- 4) 接種後一定の期間を経たおこり得る事象を説明し、理解を求める
 - ・頻度は低いが高頻度の高い事象：痙攣・麻痺・持続性疼痛など
- 5) 接種時には被接種者の緊張状態などを把握し、スタッフなどにも協力してもらい、安心して接種できる場面・環境などを作るよう工夫する。

「思春期の女子へのHPVワクチン接種時の留意点」

- 6) 接種後の失神などの事態を想定し、ベッドやソファでの座位または臥位での接種も考慮する。
- 7) 接種後には痛みや恐怖に耐えたことを評価し、ねぎらいの言葉かけをする。
- 8) 接種後に何らかの症状が出たり聞きたいこと思い出した場合は、遠慮なく電話などで問い合わせでよいことを伝える。
- 9) 被接種者本人や保護者から問い合わせや受診希望があった場合は、その訴えや希望に真摯に向き合い、丁寧に対応する。
- 10) 症状や相談への対応が当該医療機関や医師だけでは難しい場合は、「HPVワクチン接種にかかる診療・相談体制」などを参考に、専門医療機関を照会するなどの対応を速やかに行う。
- 11) 被接種者および家族に対しては、専門医療機関紹介後も、かかりつけ医として共に係わっていくことを説明し、気軽に受診・相談できる窓口としての役割を保ち続けるよう心がける。

「思春期の女子へのHPVワクチン接種時の留意点」

HPVワクチンは現在も定期接種ワクチンであり、少数ではあるが思春期女性の接種者が存在し続けている。今後積極的接種勧奨が再開された場合には、被接種者の中には、必ず一定の確率で今回問題となっている症状を呈する方が発生する。むしろ種々の情報を見聞きした経験のある接種対象者や保護者が多くおられることを考えると、ワクチン接種とは直接の因果関係のない、有症状者の数が増えることさえも予想される。

以上を鑑み、HPVワクチン接種医および接種療機関の関係者には接種にあたっての準備と心構えとを十分に行っていただき、問題となりうる症状である「痛み」を少しでも軽減させる工夫などに努め、事後措置を含めた対応にも配慮いただくことが必要である。

注射時の痛み軽減の工夫

注射時の痛みは、子どもたちにとって大きな負担になる。特に痛みについての記憶が鮮明に残り、さらに痛みへの不安や恐れを感じやすくなる年齢の高い方にとっては、純粋な痛みに対する反応だけでなく、心理的な負の影響が様々な形で表現化されることになる。

このような負の影響が大きくかかわっているのが、HPVワクチン問題である。

従来一般的に予防接種の際に用いられている注射針と、内径はほぼ同じでも外径がかなり細い注射針を用いて注射をすることにより、わずかであっても痛みの軽減効果を期待するため使用を試みた。

接種前には接種予定部位をアイスバックなどで冷やした後に接種している。

注射針の外観図

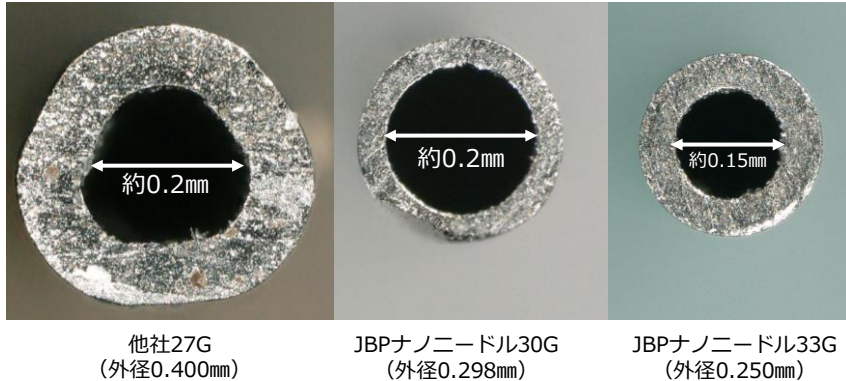
株式会社日本生物製剤社提供



注射針の断面図比較

株式会社日本生物製剤社提供

全て同じ倍率（ZS200:X300）で撮影。



年齢の高い子どもたちへの注射についての留意

- 接種の**必要性、意義**などについて、**事前に十分な説明と理解を心がける**
- 接種部位の痛みなどの**局所反応**について、**事前に十分な説明と理解を心がける**
- 接種後の**個人の事情**などを**事前に把握し**、接種時に考慮する
- 局所反応が強く、複数回接種が必要な注射の場合は、**初回接種の際に、恐怖感の軽減対応、痛みの少ない接種手技を心がけ**、以後の不安の増大を回避するよう心がける
- 痛みの程度によらず、それに**耐えたことを評価する**